

令和5年9月14日

## サーキュラーエコノミー移行の加速に向けた調査事業を実施します

～動脈・静脈産業連携による具体的なアクションの検討～

中部経済産業局は本年度、自動車関連産業を中心とした動脈産業と高いリサイクル技術を持つ静脈産業のポテンシャルを活かし、サーキュラーエコノミーへの移行のため、解決すべき課題の整理と具体的な取組の検討に着手します。

近年、国際的な資源需要の拡大と地政学的リスクの高まりによる資源制約や気候変動など、従来のリニアエコノミーから「サーキュラーエコノミー」への移行が世界的に急務となっています。経済産業政策の新機軸の一つとして成長志向型の資源自律経済の確立が位置付けられており、経済産業省は令和5年3月「成長志向型の資源自律経済戦略」を策定しました。

中部経済産業局としても、本年4月、環境・リサイクル課（旧称）を「環境・資源循環経済課」と改組し、従来の3Rの延長では実現が難しい「サーキュラーエコノミーへの移行」に向けて取組を強化していきます。

本年度は、まずは自動車関連産業を中心として、欧州ELV指令や我が国の産官学パートナーシップ形成等の動向も注視しながら、サーキュラーエコノミーへの移行に向けた調査を実施し、資源循環における課題を整理するとともに具体的な取組の検討を行います。

（注）サーキュラーエコノミー：市場のライフサイクル全体で、資源の効率的・循環的な利用（再生材活用等）とストックの有効活用（製品のシェアリングや二次流通促進等）を最大化する社会経済システム

（お問合せ先）

中部経済産業局 環境・資源循環経済課長 小林  
担当：藤吉、西谷  
電話：052-951-2768（直通）

# サーキュラーエコノミー移行の加速に向けた調査（進め方）

目的：サーキュラエコノミーへの移行促進に資するため、まずは自動車関連産業を中心にその具体策を検討する（例：プラスチック、非鉄金属など）

## 資源循環の課題把握のための静脈産業ヒアリング

- ◆ 資源循環の根本的な課題を把握するため、車や部品の形状、材質、添加物等について、**水平リサイクルの妨げ**となっている要因を把握・整理する。

## 課題整理

- ◆ 主に静脈ヒアリングの結果をもとに、水平リサイクルの妨げとなっている要因を整理する。
- ◆ 材質、選別、価格の課題など、課題の類別ごとに整理する。

## 動脈産業・静脈産業のキーパーソンとの検討会開催

- ◆ 整理した課題をもとに、テーマを選定し、循環配慮設計の実装と資源循環の実現のために必要なアクションについて議論する。  
テーマ例：①プラスチック、②非鉄金属（アルミ、銅）ほか
- ◆ **材料の選択**、水平リサイクル手法（**回収・選別**含む）について議論し、**技術的な課題**や**仕組みや制度の運用**など、課題を分類しながら具体的なアクションにつなげる。

## まとめ

- ◆ 速やかに施策展開できるよう「具体的なアクションイメージ」をまとめ、管内の有力企業及び中小企業へより実効性のある取組を促すとともに、必要に応じ中央への政策提言を行う。

## 資源循環の課題把握のための動脈産業ヒアリング

- ◆ 現状の環境配慮設計では水平リサイクルしきれていない要因・課題や現在取り組んでいる内容等を把握・整理する。

## 国内外動向把握

- ◆ 国内外の政策実施機関や関係団体へのヒアリングを実施